

第3回 柏崎市新庁舎建設検討委員会 議事概要

1 日 時 平成 27 年 8 月 26 日(水) 午後 6 時 30 分から午後 8 時 30 分

2 場 所 柏崎市役所本館 4 階 大会議室

3 出席者

(1) 委員 (五十音順)

大塚委員、西川委員、白川委員、須田委員、長副委員、中出委員、新田委員、平野委員、山崎委員、吉田委員、山田委員 (欠席：柳委員)

(2) 事務局

総合企画部長、新庁舎整備室長、総務課長、建築住宅課長、事務局職員 2 名、
(株)アルメック V P I 3 名

4 議事要旨

(1) 委員長あいさつ

今回の委員会で、新庁舎建設整備基本計画の大枠を議論していただき、次回以降、プロポーザルの仕様書の元となる基本計画の最終的な話を詰めていくことになる。ご協力をお願いしたい。

(2) 検討事項

1) 全体の検討の流れと第 3 回の検討事項及びこれまでの検討の流れと到達点

事務局：議会で特別委員会を設置したいという議論が進められている。まだ正式な設置には至っていないが、8 月 19 日に議会全員協議会が開催され、市長が出席し、これまでの経過等を説明させていただいた。その際の議論については、概要がまとめ次第、お知らせをしたいと考えている。今後も議会での議論については、検討委員会に報告させていただき、検討委員会での意見は、議会に報告をさせていただきながら、相互の意見調整を図り、より良い庁舎をつくるために検討を進めたいと考えている。

委員：協働のまちづくりの拠点となる庁舎とは、そのようなスペースがあるということなのか。

事務局：ここで記述しているのは、行政機能の一つとして協働・まちづくりを行う中心の場であるという考え方を記述している。

委員：前回は委員から 11 月にオープンする市民活動センターとの関係についての質問が出ていたが、市民活動センター「まちから」との差別化がわかりにくい。前回の事務局からの回答は、協働のまちづくりに関わるような活動的なものは「まちから」で担い、新庁舎では、市民が誰でも自由に利用できる場所を想定しているということであった。文章の違いが分かりやすい表現にする必要がある。

2) 基本機能と性能の想定など基本機能の内容

委員：市民サービス等の平面空間イメージにまちなか商店街とあるが、具体的にはどこを想定しているのか。例えば、新しい市役所のまわりに商店街をつくるということなのか。また、イベントスペースとあるが、アンケートの集計からもアオーレ長岡の「ナカドマ」のようなことをイメージしてしまう。機能としてはいいがスペースと

してつくるのか。

事務局：商店街については、中心市街地のエリア、柏崎駅から本町通りまでの市街地の商店街を想定している。イベントスペースについては、既存施設との連携を視野に入れながら、必要なものは何かについてこの場で検討していただきたい。

事務局：新庁舎の周辺に新たに商店街をつくることは考えていない。新庁舎がまちなかの空間に建設されることから、既存の中心市街地である本町通りや駅通商店街と回遊性を持たせることで中心市街地活性化に何らかの役割を果たせないかということを考えている。イベントスペースは、ふれあい交流機能は必要と考えているが、どのようなスペースがよいのかは、検討していただきたい。具体的な内容については、来年度の基本設計の中で検討していくこととなる。

委員：職員アンケートに、職員が昼食をとるスペースの設問があったが、現在職員が各自の机で昼食をとっているのは、見た目として良くないと感じる。厨房をつくるのは大変であるが、食事をするスペースをつくり、スペースを使用しない時間は、打合せスペースに使うなどしてもよいのではないか。

委員長：新庁舎のコンセプトとしては、一般市民の方は1階でほとんどの用事を足すことができることを考えており、職員が食事を机でしている様子が一般市民に見えないため、さほど問題はないと思うがどうか。なかには、自席を離れ、集まって食事することを嫌がる人もおり、結局デッドスペースになる可能性もある。全体のスペースの制約もあるので、その中に何をどのように納めるかであると思う。

委員：現庁舎よりも周辺で飲食できる環境は悪くなると考えられるが。

事務局：ご意見として承っておきたい。専用のスペースとなると、デッドスペースになってしまう可能性もあるため、全体のスペースを検討する中で、必要に応じて考えたい。

委員長：イベントスペースは、祭り等行事をするスペースだけではなく、柏崎の花火や綾子舞、春の交通安全期間中等、一定期間それに関する情報提供、PRなどをするスペースもイベントスペースと言えるのではないか。現庁舎の正面玄関ロビーに入ったときの印象よりも充実したエントランスになるようなことをイメージすればよいのではないか。

委員：行政運営に関わる機能の断面的イメージに、会議室とあるが、会議室は市民団体の利用も視野に入っているのか。また、案内機能にサインシステムの整備という記載があるが、色合いについても考慮してみてもどうか。総合窓口について、市民の来庁は、1階が主だと思われるが、1階に全て収めるのは難しいと考えられることから、2階でも多少の対応も出てくると想定されるため、高齢者や小さな子ども連れの来庁者に配慮して、1階から2階の移動にはエスカレーターの設置の検討をしてはどうか。

議会活動に関わる機能についてであるが、議員の増減、会派議員数の増減に柔軟に対応するため、可動式の間仕切りでスペースを区切れるようなつくりもよいと思われる。また、議場や委員会室は、議会閉会時には有効的な利活用も検討するとよいと思われる。市民サービスに関わる機能も重要であるが、働きやすい職場が勤務状況に影響してくるので、職員の福利厚生についても基本計画に記載してはどうか。例えば、職員アンケート結果から、更衣室を各階に設置、談話室や女性の休養室の

設置などである。市民と共用で使用できる授乳室の設置も必要だと思う。

委員長：委員の発言どおり、職員の福利厚生についての記載がなかった。職員の為だけではなく、市民の方に対しても授乳室や多目的トイレの整備は必要となってくる。基本計画に記載しておくことで、基本設計に係るプロポーザルの際に反映することが可能となる。資料のイメージ例は、このようなものをつくるということではなく、検討しているということである。

委員：基本機能と性能が羅列的に書かれており、全体の方向性がわかりにくい。行政運営に関わる機能については、職員がどのような働き方をしたいのか、どのような環境だと今より仕事の活性化につながるのか、またどういう風に市民に使ってもらいたいのか等大きな方向性を示した方がよい。プロポーザルの設計者は、全体の方向性から具体的な内容を膨らませてくれる。市民サービスに関わる機能については、単に市民に提供するのみならず、市民が供給する側になって使うことができる方が、より愛着を持ってもらえと思う。

委員長：全体の目指すべき方向性を次回までに事務局にまとめてもらい、それに付随して、行政運営や市民サービスに関わる機能の方向性についても整理して欲しい。

事務局：少し整理して、次回までに対応したい。

委員：利便性向上機能やふれあい交流機能は、市民を対象としたものであり、情報発信拠点機能は、シティセールスも視野に入れ、観光で来られた方など市外の人も対象とした機能であると思うが、全体の目指すべき方向性を整理する際に、その違いを明確にしておいた方が、具体的な案も出しやすい。

委員長：市民サービスに関わる機能の目指すべき方向性が明確になると、利便性向上機能、ふれあい交流機能、情報発信拠点機能の住み分けも明確になるのではないかと思う。駅から近くて、立地場所もよいので、熱さ、寒さをしのぎながら少し休憩ができるなど、特別な用事がなくても市役所でくつろげるスペースが1階部分にあればよい。親しみを持たれる市役所とは、気軽に足を運び、気軽に利用できる建物である。柏崎駅周辺に建設されるということが、新しい市役所として最大限のアドバンテージであると感じている。

委員：情報発信に関して、観光協会などが情報発信を行っているが、市内の観光・イベント情報等については、有名なもの以外の情報はあまり市民には知られていないことがあると思う。カフェのような空間があって、暑さ寒さがしのげるフリースペースに、インパクトのある観光等の情報発信スペースがあるとよい。さらに、フリーのWi-Fi環境があれば、サラリーマンの需要にも対応できるのではないか。

委員：ふれあい交流機能は必要ではあるが、まちなかにある既存施設が廃れては困る。市役所に交流機能を持たせるのであれば、アルフォーレにも同じようなフリースペースがあるので、アルフォーレとの連携・協調性も考えるとよいのではないか。また、市民プラザで勉強している学生は、駅の近くに市役所ができるのであれば、新庁舎に移動すると思う。そういった既存施設の利用者が減少するというような懸念があることも配慮しながら検討して欲しい。

委員長：新しい機能を入れる際には、それと同等の機能がどこにあって、どうするかということと比較検討した上で、既存施設を活かすか、新庁舎に機能を取り込み、古い施

設は、別の活用方法を考える等検討しなければならない。

委員：最終的な既存施設との区別をする必要がある。周辺では、エネルギーホールや産業文化会館もホール機能がある施設である。一概に取り込むと古い方が廃れる可能性もあるので、既存施設との区別を検討する必要がある。

委員長：既存施設の機能も整理した上で、新庁舎に入れる機能を検討していきたい。

事務局：アルフォーレを建設する際にも、既存施設との兼ね合いとその役割分担について議論してきた。今秋オープンする市民活動センターの際にも、既存施設との関連性については検討してきている。新庁舎の機能を検討する際も、既存施設は、十分に活用していきたいというスタンスである。

委員：利便性向上機能として、コンビニ等民間が運営することの検討は。

委員長：売店、ATMとイメージ例であげており、コンビニ等も想定できるが、具体的な内容については、今後の検討で決まっていくものだと思っている。

委員：柏崎は風が非常に強いので、動線を確保する際には風対策にも配慮して欲しい。駐車場は、安全性にも配慮して歩車道が分離されているとよい。買い物の主導権は女性にあることが多いと思われるので、市役所に来たついでに、女性がまちなかに出やすい雰囲気や環境をつくってもらえば、中心市街地活性化に寄与するように思う。

委員長：車と歩行者の関係については、公共交通機関を利用する人は、柏崎駅やバス停からは徒歩で来庁することが想定され、自動車で来庁する人は反対にアルフォーレ側から入るようにすれば、歩行者と車の動線は平面的に分離可能である。その件についても基本計画の中で唱っておくとよいと思われる。風対策については、イメージが少し難しいが、景観との兼ね合いを考慮にいれないといけないと思う。

事務局：特に風が強いのは、冬季であり、冬季の動線をどう確保するかということは一つの課題である。意見をいただきながら、事務局で整理し、検討したい。

委員：動線を検討する上では、市役所の出入口がどこになるのかということも重要になると思う。アンケートでも公共交通機関で来ると回答した人は圧倒的に少なかったが、柏崎の人は、300m離れると歩かない。高齢者は、柏崎駅からアルフォーレまでタクシーを利用する人も多い。

委員長：高齢者がスムーズに移動できるように、車の動線だけではなく、公共交通機関との連携も視野に入れた上で検討する必要がある。市役所を建設したら、長期にわたり使用することになるのであるから、特に将来の事も視野にいれて議論する必要がある。

委員：市民の方が来られる窓口を集中するのはとても良いと思う。加えて、相談室の確保にも配慮して欲しい。低層階にすべて納めるのは難しいと思うが、できるだけ1・2階に配置し、個別対応ができるような工夫をする必要もあると思う。所属によって、集中する時期等に差異があることから、実際の窓口担当者と情報共有をして、相談室の整備をしたらよいと思う。

委員長：相談を受ける側の担当職員に、情報を聴取して欲しい。相談室は、必要最大数を作るのではなく、8割方充足させ、ピーク時のマネジメントを含めて検討する必要がある。

委員：基本機能が重要である。市民サービスに関する機能も重要であるが、市民アンケー

トで、必要最小限の機能でもよいという意見もあり、総合窓口はよいが、相談等であって待ち時間が増えるのであれば、専門的な事は専門的な所属で受けることもよいのではないか。他自治体で総合窓口をやっているところがあるのであれば教えて欲しい。

委員長：長岡市は総合窓口を導入しているが、待たされるようなことはない。

委員：総合窓口が不要なくらいに、窓口機能が整理されているとよいのではないか。

事務局：(配布した参考資料をもとに他自治体の事例について説明)

委員長：飯田市、三条市は、柏崎市を人口規模・行政需要がほぼ同程度である。氷見市は5万人程度でやや少ない。

委員：フロアマネージャーとは、こういった性格のものか。

事務局：市役所の入口で、建物全体を総合的に案内するのが総合案内である。フロアマネージャーは、1階の市民フロアでの細やかな案内を主とし、申請書の補助をも視野に入れたお客様係のようなものを想定している。

委員：臨時給付金等、第二分館で臨時の窓口が開設される場合、廊下に長机を並べて窓口化している。臨時的な業務も対応できるようなスペースも考慮する必要がある。

委員長：そういったことにイベントスペースが総合窓口との連携で対応出来るのではないか。事務局で各々の機能についての意見をまとめて、全体の方向性を提示して欲しい。その上で、機能をもう少し具体的に、どのくらいのスペースがどの程度いるのか等考えていくことになる。ボリュームを検討した結果、市民交流スペースが、執務スペースに取られてしまうことも可能性としてある。市民が使うスペースについては休日の防犯体制も考慮しなければならない。

3) 性能・建設予定地の諸条件・規模の推計

委員長：ユニバーサルデザインは、サインやカラーの工夫は、ソフト面に関することであるが、庁舎をハードとしてどう整備するかが重要である。高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律、新潟県福祉のまちづくり条例は、建築基準法の上乗せであり、福祉のまちづくり条例の誘導基準はかなり豊かな基準になっている。多目的トイレのオストメイトやエレベーターに介助者も乗れるようになっており、できれば、この誘導基準に基づいて整備して欲しい。ただ、そうなると、廊下や出入り口の幅などもスペースを取るような形となってしまうが、財産として残るので検討する余地はあると思う。まずは、ハード面を整備した上で、ソフト面の整備をすることになる。

現庁舎はどこの階でも車椅子で移動ができるのか。

事務局：正面玄関、西側出入口にスロープがあり、各階へはエレベーターで移動可能である。

委員：寝台型の車椅子では現庁舎での移動はできないと思う。山手線では、駅員がフォローしている。柏崎市近辺では、そういう状況をあまり見たことがない。

委員長：寝台型の車椅子などまで考慮した基準を採用することは、難しい。ハード面で整備の難しい部分は、職員が介助する等ソフト面で対応をする。国の基準、新潟県の基準を参考にして整備をする必要がある。

委員：基本理念に、柏崎のシンボルとなる庁舎とあるので、ぜひそのような庁舎を建設し

て欲しい。機能性を重視し、装飾は抑え、維持管理コストが抑制されたものが望ましい。職員の駐車場についてアンケートでも要望が多かったが、平面で整備することはスペースに無理があるので、来庁者は平面として、職員用は2層式にしてはどうか。また、新庁舎の出入口からバス停まで、屋根つきの歩道を整備する等駐車場から障害にならない程度の対策も必要なのではないかと思う。環境性能について、自然採光・自然換気・太陽光発電など環境にやさしい庁舎はぜひお願いしたいが、コスト面も考慮した上で、柏崎は水が豊富であるため、雨水の利用をしてはどうか。構内舗装、浸透柵などの対策を計画の中に入れてもよいと思う。緑のある駐車場は非常に見栄えがよいので、環境にやさしいという意味で、できればそのような点にも配慮したらどうかと思う。

委員長：環境にやさしいというのは、資料にも記載されているとおり、様々な手法があるが、全体のボリュームとして、階高の問題や駐車場については、敷地面積の中で1階の面積がどれだけになるかと言うこともあり、今後基本計画の中で考えていかねばならない。その上で、職員駐車場も検討していくことになる。

事務局：職員の駐車場は、通勤距離によって駐車場の要・不要が決定され、駐車場の使用料金を徴収しているが、新庁舎においても同じ考え方になる。

委員：現在使用しているフォンジェの駐車場を出るのか。

事務局：今後の新庁舎の配置によって、一般市民用の駐車場をまず確保してから、職員駐車場については、状況をみながら検討したいと考えている。

委員長：次回に駐車場のボリュームを考えていただければと思う。事務局から国土交通省の算定基準が14,000㎡と提示されているが、他市の一人あたりの面積である30.7㎡と比較すると少し控えめな数字であるから、出発点のボリュームはこれでいきたい。建設予定地の諸条件については、都市計画的には問題ないと考えているが、用途も地区計画でうたわれていることであるし、諸条件については、ご了解いただきたい。耐震性能、環境性能、ユニバーサルデザイン、セキュリティ対策等基本的に4つをあげているが、ほかにご指摘があればいただきたい。

委員：太陽光エネルギーの採用は多いが、売電も考慮した場合には、配慮が必要である。緊急時には自家発電もあるが、地産地消の観点から、東芝のリチウム電池を使用してはどうか。

事務局：売電は考えていない。

委員長：太陽光のエネルギー効率としては、お湯を沸かすことに優れており、それを温水給湯する方が良い。環境に関しては、かなり様々なことができるようになってきている。

私の大学では耐震改修を行ってはいるが、耐震性能は最低ラインで、キャスビーへの対応に苦慮している。そのためには、断熱性能が良い方がいいが、コストとの兼ね合いもあって難しい。検討の余地がある。

5. 次回開催について

第4回：10月 7日(水) 18:30～

第5回：11月11日(水) 18:30～

以上